

立命館創始155年・学園創立125周年記念 2025年度立命館先進研究アカデミー(RARA)主催シンポジウム

# アート×テクノロジーが “可視化”する 未来研究デザイン

異分野融合で挑むデジタル・パブリックヒューマニティーズ

対象

研究者、高校生、大学生、大学院生、一般市民の皆様

2025年7月12日(土) 13:00~17:40  
(12:30開場/コーヒーブレイクあり)

立命館大学大阪いばらきキャンパス H棟2階 ラーニングインフィニティホール + オンラインライブ配信

SPEAKERS ※敬称略



西浦敬信

立命館大学RARAアソシエイトフェロー  
情報理工学部教授



赤間 亮

立命館大学RARAフェロー  
文学部教授  
アート・リサーチセンターセンター長



MODERATOR

田中 覚

立命館大学RARAフェロー  
情報理工学部特任教授  
アジア・日本研究所副所長



松葉涼子

立命館大学文学部教授  
デザイン・アート学部、  
デザイン・アート学研究所  
設置委員会委員

参加費無料・事前申込制

(定員になり次第、申込受付を締め切ります)

2025年7月9日(水)23:59

現地参加 200名 / オンライン参加 500名

使用言語 日本語

情報保障 UDTークによる字幕配信あり

日本語字幕、機械翻訳による他言語字幕が必要な方は、申込フォームにてお知らせください。



中山雅貴

Senior Vice President,  
Studio Head  
Sony Innovation Studios



モニカ・ビンチク

メトロポリタン美術館  
ダイアン&アーサー・アビー  
日本工芸キュレーター



廣田ふみ

プロデューサー  
株式会社イッカク  
代表取締役

詳細・お申込みはこちら



<https://rararits250712.peatix.com/>

同時開催

RARA学生フェローによるポスターセッション

# 異分野融合で解き明かす創造性の本質と人間の叡智、体験、場所、研究の未来

テクノロジーが急速に進化し、とりわけ生成AIやXR(現実世界とデジタル世界を融合させる革新的な技術)が飛躍的に発展する現在、至るところで「人間らしさとは何か」「創造性はどこから生まれるのか」といった根源的な問いが浮上しています。テクノロジーが高度化するほど、身体感覚を伴うアートやデザインの価値が再認識され、領域を超えたコラボレーションが世界規模で生まれ始めています。

立命館先進研究アカデミー(RARA)は、こうした潮流のハブとなり、理工系の技術と人文・芸術研究を横断し、学内外の先端知を結ぶNodes(結合点)の形成と新たな知の創出に取り組んでいます。この度、知の共有と深化のために、アートとテクノロジーが可視化し拡張する私たち人間の叡智や体験、場所、そして、研究という営みについて、これからのデザインを考えるシンポジウムを開催します。奮ってご参加ください。

## Profile (敬称略)

### 西浦 敬信 TAKANOBU NISHIURA

立命館大学RARAアソシエイトフェロー / 情報理工学部教授

専門は音響情報学。音環境の解析、理解、再現、合成などの研究に従事。近年では、サラウンド音環境にハイレゾ音源と信号処理技術を取り入れたイマーシブオーディオ(高臨場没入型音空間)の研究開発に取り組んでいる。2004年立命館大学情報理工学部助教授、2007年同准教授を経て2014年より同教授。博士(工学)。

### 田中 覚 SATOSHI TANAKA

立命館大学RARAフェロー / 情報理工学部特任教授 / アジア・日本研究所副所長

専門は情報科学。多様なビッグデータから有益な情報を抽出し、可視化する研究に従事。近年では、世界遺産や国宝を含む国内外の貴重な文化財を3次元計測し、得られたビッグデータを精密可視化技術により活用する取り組みを進めている。2002年立命館大学情報理工学部教授、2025年より同特任教授。博士(理学)。

### 中山 雅貴 MASAKI NAKAYAMA

Senior Vice President, Studio Head, Sony Innovation Studios

2000年ソニー(株)入社。東京・アジア諸国勤務を経て、2007年よりソニー・ピクチャーズ勤務。ソニーの技術・商品を、映画・TV制作に活用する。2017年ソニー・イノベーションスタジオ起業。バーチャル制作技術の開発と応用に従事。カリフォルニア州・ハワイ州弁護士。

### 廣田 ふみ FUMI HIROTA

プロデューサー / 株式会社イックク代表取締役

文化庁芸術文化課、国際交流基金アジアセンター、東京都歴史文化財団等を経て、アートとデジタルテクノロジーを通じて人々の創造性を社会に発揮するための活動拠点「シビック・クリエイティブ・ベース東京」を立ち上げ。二松学舎大学非常勤講師。

### モニカ・ビンチク MONIKA BINCSIK

メトロポリタン美術館デザイン&アーサー・アピー日本工芸キュレーター

「着物スタイル:ジョン・C・ウェバーコレクション」(2022)、「京都—芸術的創造力の都」(2019)などの展覧会を企画。『着物スタイル:江戸の伝統から現代のデザインへ』(メトロポリタン美術館、2022)など日本の工芸と収集歴に関して多数執筆。

### 赤間 亮 RYO AKAMA

立命館大学RARAフェロー / 文学部教授 / アートリサーチセンターセンター長 / デザイン・アート学部、デザイン・アート学研究科設置委員会副委員長

専門は文化情報学。欧米の図書館・博物館に所蔵される日本文化資源をデジタル化して大規模アーカイブを構築。とくに浮世絵データベースは、世界最大の浮世絵データベースとして知られている。スポーツや演劇などの無形文化のデジタルアーカイブ研究にも実績を上げている。

### 松葉 涼子 RYOKO MATSUBA

立命館大学文学部教授 / デザイン・アート学部、デザイン・アート学研究科設置委員会委員  
専門は出版文化史。大英博物館企画展「Hokusai Beyond the Great Wave」(2017年)および「Citi Exhibition Manga」(2019年)にプロジェクト・キュレーターとして参加し、後者では図録の執筆も担当した。

立命館大学では、学園ビジョンR2030「挑戦をもっと自由に」のもと、社会共生価値の創造とイノベーションに取り組む「次世代研究大学」の実現に向けて歩みを進めています。2021年、さらなる研究高度化を牽引する制度として先導的・先進的研究拠点の形成を担う中核研究者の集まり「立命館先進研究アカデミー(英語名称: Ritsumeikan Advanced Research Academy(RARA))」を設立しました。



RARAウェブサイト

## Timetable

### 13:00 開会、趣旨説明

立命館大学学長 仲谷 善雄より挨拶  
アジア・日本研究所所長 小杉 泰より挨拶  
モデレーター 田中 覚より趣旨説明

### 13:15 リレートーク 途中10分休憩あり

#### I テクノロジーの視点から

西浦 敬信  
「祇園囃子の音響デジタル保存とイマーシブオーディオへの拡張」  
田中 覚  
「3次元計測を活用した文化財のデジタル保存とビジュアル分析」

#### II 企業・社会活動の視点から

中山 雅貴  
「映像制作における各種キャプチャ技術の活用」  
廣田 ふみ  
「メディア文化のオープンネス—つなぐ場所／ひらかれる表現」

#### III 人文学の視点から

モニカ・ビンチク  
「Enriching Museum Engagement Through Digital Innovation」  
赤間 亮  
「文化資源デジタルアーカイブからデジタル・パブリックヒューマニティーズへ」

### 15:30 コーヒーブレイク

### 16:00 パネルディスカッション

コメンテーター: 松葉 涼子  
パネリスト: 中山 雅貴、廣田 ふみ  
モニカ・ビンチク、西浦 敬信  
赤間 亮  
モデレーター: 田中 覚

### 17:40 閉会

RARA学生フェロー  
ポスターセッション

RARAでは、次世代研究者である優秀な博士後期課程の大学院生を「RARA学生フェロー」として採択し支援しています。休憩時間中に開催する学生フェローらによるポスターセッションへ、お気軽にお立ち寄りください。(会場:1棟1階 OIC FOOD PARK)

## Access

立命館大学 大阪いばらきキャンパス

大阪府茨木市岩倉町2-150



アクセスマップ

■ JR 茨木駅から徒歩約5分

■ 阪急京都線 南茨木駅・大阪モノレール 南茨木駅・同 宇野辺駅から徒歩約10分

問い合わせ先: 立命館大学研究部RARAオフィス  
rararits@st.ritsume.ac.jp

共催 立命館大学アートリサーチセンター / アジア・日本研究所 / デザイン・アート学部、デザイン・アート学研究科設置委員会